

Josef Bayer's Ballet "Donaunixe" using Melodies
by Johann Strauss

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 若宮, 由美 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/603

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



ヨーゼフ・バイヤー作曲のバレエ《ドナウの水の精》

ヨハン・シュトラウスとの関連

Josef Bayer's Ballet „*Donaunixe*“ using Melodies by Johann Strauss

若 宮 由 美

WAKAMIYA, Yumi

In 1892 Austrian Princess Pauline von Metternich organized “the International Exhibition of Music and Theatre” in Prater(Vienna). For this exhibition she asked Johann Strauss junior a waltz. He promised her to offer the waltz “*Seid umschlungen Millionen*”, op.443. Later the Princess asked Strauss to compose a ballet for the Exhibition too. Strauss, however, refused her request. The ballet was the “*Donaunixe*”, which first performed on 13th July. It is not clear why the director of the Austrian Court Ballet, Josef Bayer composed this exhibition ballet. As the result of analysis Bayer used the motifs of 40 works by Johann Strauss junior and “Radetzky March” by Johann Strauss senior in the ballet “*Donaunixe*”.

序

1892年、ウィーンで「国際音楽演劇博覧会」が開催された。この博覧会は、前年に開催されたモーツァルト没後100年記念音楽祭に鼓舞されたパウリーネ・フォン・メッテルニヒ侯爵夫人 Pauline Clémentine von Metternich-Winneburg zu Beilstein(1836-1921)が企画。5月7日から10月9日まで、プラターを会場に開かれた。その期間中の7月13日水曜日、宮廷歌劇場バレエ指揮者であるヨーゼフ・バイヤー Josef Bayer (1852-1913) が作曲したバレエ《ドナウの水の精 *Donaunixe*》が、博覧会劇場で初演された。このバレエには、全編にわたってヨハン・シュトラウス 2 世 Johann Strauss junior (1825-99) のメロディー

が引用されている。本研究の目的は、このバレエとシュトラウスの関係、ならびにバレエ曲に使用されたシュトラウス・モチーフの原曲を解明することである。

1 作品成立までの経緯と背景

1.1 「国際音楽演劇博覧会」とシュトラウスの関係

「国際音楽演劇博覧会」では、毎日、博覧会劇場でオペラなどの上演が行われたほか、会場内のホールで演奏会が開催され、パビリオンではヨーロッパ各国の音楽や楽器、さらにはモーツァルト、ベートーヴェン、ウェーバー、マイヤベーア、シューマン、メンデルスゾーン、リスト、ヴァーグナーといった有名作曲家に関する展示が行われた。入場料は

キーワード：ヨハン・シュトラウス、ヨーゼフ・バイヤー、バレエ、ドナウの水の精、国際音楽演劇博覧会
Key words : Johann Strauss, Josef Bayer, ballet, Donaunixe, International Exhibition of Music and Theatre

平日が40クロイツァー、日曜祝日が30クロイツァー¹⁾であった。バレエ《ドナウの水の精》は博覧会の呼び物のひとつとして、メッテルニヒ夫人が計画した作品である。構想の段階では、作曲をヨハン・シュトラウス本人に依頼する心積もりであった。しかし、シュトラウスが作曲を拒否したため、バイヤーがシュトラウスのメロディーを用いて音楽を構成するに至った。その経緯を眺めてみよう。

1892年1月1日、シュトラウスは自身初のオペラ作品、《騎士パースマーン Ritter Pásmán》を宮廷歌劇場で初演する。オペラの作曲が初めてであるばかりでなく、宮廷歌劇場で作品が初演されるのも初めての経験であったため、彼は全精力を上演準備に傾けた。しかしながら、この作品は失敗に終わり、2月5日の第7回公演をもって打ち切りとなる。それによって、彼は多額の借財を抱えることになり、その後は同オペラのプラハ上演に向けて奔走する²⁾。

その一方で、1月23日付の*Österreichisches Volks-Zeitung*紙と*Flemden-Blatt*紙は、「国際音楽演劇博覧会のためにシュトラウスがワルツを作曲」と報じた(MAILER 1996: Bd.6: 62)。シュトラウスがいつ依頼を受けたのかは明らかでない。2月14日付の*Neue Freie Presse*紙で、楽譜出版社ジムロックがこのワルツに関する記事を掲載している。「ヨハン・シュトラウスはメッテルニヒ侯爵夫人に選ばれ、国際音楽演劇博覧会のために新作ワルツを執筆することになった。題名は〈もろびと手を取り Seid umschlungen Millionen〉³⁾。(中略)これは新しい博覧会用ワルツにぴったりのタイトルである」(MAILER 1996: Bd.6: 100)。タイトルに用いられた「もろびと手を取り」は、ベートーヴェンの第9交響曲にも

使用された、シラー Johann Christoph Friedrich von Schillerの有名な詩節であり、「博愛的な意味」を持つ。ジムロックは、この記事の中でワルツが「新作」であることを強調しているが、〈もろびと手を取り〉は必ずしも博覧会への献呈を予定した作品ではなかった。なぜなら、シュトラウスは前々から出版社ジムロックを紹介した友人のブラームス Johannes Brahms(1833-97)に自作を献呈しようと考えており、ブラームスのためのワルツを「国際音楽演劇博覧会」に流用することを企てたからである。ジムロック社から刊行された〈もろびと手を取り〉op.443の初版譜表紙には、献呈者として「ブラームス」と「国際音楽演劇博覧会」の名が併記されている。このことは、博覧会ワルツの作曲にシュトラウスが乗り気ではなかったことを示唆している。それでも、〈もろびと手を取り〉は博覧会開幕の目玉となるはずであった。

他方、博覧会的主催者であるメッテルニヒ夫人は、新作ワルツにとどまらず、シュトラウスに何度も接触し、さらなる依頼を行っている。2月13日付のシュトラウスの書簡には、「メッテルニヒ侯爵夫人は博覧会用のオペレッタを書くように頼んできたが、私は断った」とある(MAILER 1996: Bd.6: 90)。そして、3月5日付のジムロック宛の書簡には、次のように書かれている。「メッテルニヒ侯爵夫人が博覧会のための1幕物バレエを書くように迫り、私を困らせている。しかしながら、私に供された題材についていえば、第一に、これに私はまったく興味が持てないし、第二に絆されて書きなぐるように急いで作曲するつもりもない。私がバレエを書くとするれば、魅力的で詩的な物語に私が心を動かされる以外にはない。だから、あなたの同意なしには

作曲ができないのだという逃げ口上を使った。というのも、物語がまったく気に食わず、他の言い訳を考える気も起こらなかったからだ。にもかからず、彼女は昨日私を訪ね、信じられないようなエネルギーで説得を続けた。バレエの上演は9月を予定しているということだ。台本作家と侯爵夫人の説得は続くだろう。ということは、〈もろびと手を取り〉を書く時間をみつけるのが困難ということだ。このワルツはいまだ宙に浮いた状態にある。私自身もこの曲については題名だけしかわかっていない。あなたに作品の中身について報告できるまで、まだかなり時間を要する」(MAILER 1999:Bd.6:125-126)。ここで話題にされたバレエこそが、《ドナウの水の精》であった。この時点でシュトラウスは博覧会ワルツの作曲にさえ、手をつけていなかったことがわかる。

1.2 シュトラウスとバレエ

前述の書簡で、シュトラウスがバレエに嫌悪感を表明しているのには、理由がある。1892年元日に初演した《騎士パースマーン》は、オペラ作品に欠かせないバレエ音楽を含んでいた。1月3日、*Neue Freie Presse*紙の初演評で、ウィーンの著名な音楽評論家ハンスリックEduard Hanslick(1825-1904)は、オペラそのものにはほとんど言及せず、「第3幕のバレエは、スコアのなかでひとときわ輝く至宝であり、こんにちでは彼が最も効果的なバレエを書くことができる唯一の作曲家である」と述べ、劇中のバレエ音楽を賞賛した。ハンスリックはシュトラウスのバレエ音楽の才能を見つけ、後年、彼の唯一のバレエ作品《シンデレラ Aschenbödel》RV520の作曲に手を貸すことになる⁴⁾。しかし、1892年の《騎

士パースマーン》に対する批評は、シュトラウスを怒らせ、翌2月のコンコルディア舞踏会にて、ポルカ・マズルカ〈公平な批評 Unparteiische Kritiken〉op.442を発表し、ハンスリックへの強烈な抗議を行うのである。したがって、この時点でシュトラウスはバレエ音楽に手を染めるつもりは毛頭なかった。

1.3 シュトラウスとメッテルニヒ夫人の関係

シュトラウスとメッテルニヒ夫人の付き合いは、1867年のパリ万博への出演を望むシュトラウスが、フランス社交界で活躍する夫人に助力を求めて以来続いていた⁵⁾。だが、1892年のシュトラウスは昔の恩義を忘れたかのような行動にでる。同年3月27日、シーズン最後のシュトラウス・コンサートにおいて、博覧会用ワルツ〈もろびと手を取り〉を、メッテルニヒ夫人に無断で初演してしまうのである⁶⁾。つまり、シュトラウスはバレエのみならず、博覧会に対する興味も持ち合わせてはいなかったのである。ふたりの関係には大きな亀裂が入り、〈もろびと手を取り〉が博覧会の開幕式で演奏されることはなかった⁷⁾。

1.4 バイヤーの作曲過程

シュトラウスが断ったバレエの作曲を、バイヤーが引き受けた経緯は判明していない。しかし、バイヤーは出世作《ウィンナ・ワルツ Wiener Walzer》(1885)において、シュトラウス音楽を引用した経験を有していた。

オーストリア国立図書館には、バイヤーによる自筆譜“*Die Donaunixe*”(Mus. Hs.36061. Mus)が所蔵されている。これはピアノ譜で、不完全ながら、「前景 Vorspiel」の全体と「第1景 1.Bild」の一部を含む。バイヤーは作曲の際、まずはピアノ譜を書き、それからオー

ケストレーションを施した。したがって、この自筆譜は《ドナウの水の精》の初稿とみなすことができる。「前景」の冒頭頁の右上には4月4日、「前景」の終わりには4月5日と書き込まれている。「前景」はわずか2日で書き上げられたと判断できる。一方、「第1景」で現存するのは、「挿入」と書かれた1枚（第14～55小節に該当）のみで、その日付は6月24日である。バイヤーは相当な勢いで作曲にあたり、当初予定された9月よりも早く、7月13日に初演を迎えるに至った。

2 作品の概要

2.1 資料の状況

作品の概要を述べる前に、本研究で使用した資料を整理しておく。使用資料は、(a)楽譜資料と(b)当時の新聞記事の2種類である。(a)楽譜資料としては、(1)バイヤーによる自筆ピアノ譜(不完全)、ならびに(2)Cranz社刊によるピアノ譜 *“Donaunixe: Ballet in einem Vorspiel und vier Bildern mit*

Benutzung Joh. Strauss'scher Motive”(全曲)がある。自筆ピアノ譜とCranz社刊のピアノ譜の内容は完全に一致する。自筆譜には、行間にデルマン Felix Dörmann(1870-1928)による韻文形式の物語が書き込まれている。楽譜から得られる情報は、音楽に関連するものに限られる。したがって、他の情報は当時の新聞記事を参照した(参照新聞は後ろに列記)。本研究の分析には、Cranz社刊の楽譜を使用した。

2.2 バレエの構成

バイヤーの自筆譜では、冒頭頁の最上段に“Prolog Donauweibchen”と書かれている。その文字が横線ですべて消され、“Vorspiel”に訂正されている。“Donauweichen”は、シュトラウスの《ドナウの乙女》op.427の原題である。“Donauweibchen”と“Donaunixe”はともに「ドナウの水の精」を示すことから、バイヤーは当初、両者を混同していたと考えられる。



図 1 : 1892年7月13日付 *Neue Freie Presse* 紙

また、Cranz社の楽譜では、タイトルに「シュトラウスのモティーフを用いた前景と4つの情景によるバレエ」と記されている。バイヤーの自筆譜では、“Prolog”の文字が消され、“Vorspiel”と書き直されている。訂正後の両者の表記法は一致する。

次に、《ドナウの水の精》の記事が掲載された、初演日の*Neue Freie Presse*紙を図1に示す。この記事（図1の左欄中段～中欄下まで）をはじめ、新聞各紙では、一貫して“Ballet in 5 Bildern”、すなわち「5つ情景からなるバレエ」と記載されており、“Vorspiel”という表記は用いていない。楽譜と新聞では表記が一致しない。そこで本論では楽譜の表記法、すなわち「前景と4つの情景」の区分に従う。

2.3 バレエ《ドナウの水の精》の物語

「ドナウの水の精」の物語は、ウィーンに古くから伝わる民話として知られる。民話では、「ドナウの水の精」に出くわした若い漁師が彼女の虜となり、ついにはドナウ川に身を投げる。しかし、博覧会バレエではまったく異なる物語がつけられた。構想を練ったのは、オトン・ブルゴワン男爵 Othon Baron von Bourgoing (1839-1908)。それをデルマンが韻文で書き下した。デルマンの台本は、初演時に一般販売されていた（図1の右欄参照）。

物語の梗概を以下に紹介する。「ドナウの水の精」であるIsa（ドナウの王Isoの娘）は、Schwarzenegg伯爵に恋をする。同伯爵にはすでに花嫁（Wallburg伯爵令嬢Helene）が決まっていたが、Isaは父から24時間の休暇をもらい、Schwarzenegg伯爵の心を掴み、水底の国に連れて帰るべく奮闘する。Isaは、花売り娘、上流婦人、漁師の娘などに身を変えながら、何度も伯爵に接近する。しかし、

その都度、花嫁の父であるWallburg伯爵に邪魔をされる。水の精たちもIsaの応援をしますが、結局Isaは伯爵令嬢Heleneに勝つことができず、失意のうちに水の国に戻る。物語の時代設定は18世紀末のウィーン。各情景の場面設定は、前景「ドナウの帝国 Im Reich des Donaufürsten」、第1景「フライウンクの市場 Der Markt auf der Freieung」、第2景「『暗がりの門』の前のグラーシ Das Glacis vor dem „finstern Thor“」、第3景「ドナウ川の岸辺 Eine Au an der Donau」、第4景「ヴァルブルク邸での仮面舞踏会 Bal paré masqué im palais Wallburg」。

2.4 配役

バレエの振付は、宮廷歌劇場のソロダンサーであるティーメ Otto Thieme (1855-1900) が担当した。初演では作曲者バイヤー自身が指揮。初演時の配役を表1に示す。

表1：《ドナウの水の精》初演の配役

役 名	演 者
Iso, der Donaufürst	Hr. Trepplin
Istra, seine Gemalin	Frl. Nilsine
Isa, die Donaunixe	Frl. Hussarek
Nixcobt, der Wassernick	Hr. Wierand
General Graf Wallburg	Hr. Schmidtler
Comtesse Helene, seine Tochter	Frl. Di Dio
Erwein Graf Schwarzenegg, ihr Bräutigam	Hr. Stillfried

3 シュトラウス・モティーフの引用

3.1 引用状況

5月に開幕した博覧会では、多くの作曲家による音楽が演奏されたが、7月になるまでシュトラウス音楽が鳴り響くことはなかった。《ドナウの水の精》は、博覧会に欠けていた

シュトラウス音楽を登場させたという点でも、聴衆に歓迎された。

それでは、バイヤーは何曲のシュトラウス音楽をバレエに使用したのであろうか。Cranz社刊の楽譜には、モティーフの出典は明記されていない。本研究では、シュトラウスが1892年までに作曲した約442曲の器楽曲、および舞台作品とバレエの照合を行い、引用モティーフを探し出す調査を行った。その結果を表2に示す。一番左の欄は、「各情景の小節番号」、次欄に「引用された楽曲の作品番号」「題名（原題）」と「シュトラウスの原曲における当該箇所調性」、その右隣に《ドナウの水の精》における「調性」と「拍子」、続いて「引用された楽曲のジャンル」と「引用された原曲モティーフの箇所」を示した。原曲が見つけれなかった箇所には、？を記入した。

3.2 引用の手法

バイヤーによる自筆譜には、引用されたシュトラウスの原曲名が楽譜の左欄外に記されている⁸⁾。それらは、「前景」の〈市民の心 Bürgersinn〉op.295（第1～73小節）、〈おとぎ話 Feen-Märchen〉op.312（第80～152小節）、〈宣伝ビラ Flugschriften〉op.300（第153～200小節）である。これらを原曲の楽譜と見比べると、〈おとぎ話〉は、原曲のモティーフを順不同で接続させてはいるものの、調性や拍子、リズムなどは、そのまま引用している。〈市民の心〉もほぼ同様で、経過的な部分のみを少し変形させている。

一方、第153小節からの〈宣伝ビラ〉のモティーフ（第5ワルツA）は、かなり変形されている。ここから、バイヤーの引用には、モティーフに「手を加えなかったもの」と「手

を加えたもの」が存在することが証明される。したがって、表2の右端3欄には、引用の状況に応じて、(1)ほぼそのまま引用した小節数、(2)変形引用した小節数、(3)原曲未定の小節数を示し、各情景の比率を算出した。

4 モティーフ引用に関する考察

調査の結果、《ドナウの水の精》にはヨハン・シュトラウス2世による40曲、およびヨハン・シュトラウス1世 Johann Strauss senior (1805-49) による〈ラデツキー行進曲 Radetzky Marsch〉op.228の合計41曲が引用されていることが判明した。シュトラウス2世による40曲のうち、最も古いものは1863年の〈ポルカ・マズルカへの招待 Invitation à la Polka Mazur〉op.277、そして最も新しいものは1888年の〈ドナウの乙女〉op.427である。全体的には、op.300前後の作品に引用が集中している。そして、前景と第3景はワルツが主体であり、その他では多くの曲種から引用が行われている。

次に、引用モティーフの接続法についてだが、同じ楽曲からの引用が続く場合にも、第1景第336小節からの〈ジャーナリスト Die Publicisten〉op.321のように、モティーフの登場順序が入れ替えられていたり、かけ離れた箇所のモティーフが接合されていることも多い。とくに後者の事例は枚挙に暇がない。また、モティーフの形をみるならば、(1)モティーフをそのまま引用している箇所（移調を含む）は全体の64パーセント、(2)変形しているものは13パーセントである。変形の手法は、メロディーの変形が多いものの、前景第219小節のように、〈美しき青きドナウ An der schönen blauen Donau〉op.314を9/8拍子にしたり、第1景冒頭の〈朝刊 Morgenblätter〉

表2：《ドナウの水の精》に引用されたシュトラウス・モチーフ

Vorspiel (表中でV0と表記)

								引用の状況		
mm	Opus	Title	Original Key	Key in Donaunixe	Meter	Genre	Motif (*=variant)	そのまま引用	変形引用	原曲未定
1	295	Bürgersinn	E	E	3/4	Walzer	Intro-A	35		
36	295	Bürgersinn	E	E	3/4	Walzer	Intro-B	8	8	
52	295	Bürgersinn	E	E	3/4	Walzer	Coda*		8	14
74	?	???	?	G	4/4					6
80	312	Feen-Märchen	F	F	3/4	Walzer	Walzer-1A	30		
109	312	Feen-Märchen	As	As	3/4	Walzer	Walzer-5A	24		
133	312	Feen-Märchen	F	F	3/4	Walzer	Walzer-2A	19		
153	300	Flugschriften	F	F	3/4	Walzer	Walzer-5A*		19	
172	300	Flugschriften	F	F	3/4	Walzer	Intro-B	24		
185	300	Flugschriften	F	F	3/4	Walzer	Walzer-5A*		16	
201	295	Bürgersinn	F	F	3/4	Walzer	Intro-A*	4	6	
211	?	???	?	a	9/8					8
219	314	An der schönen blauen Donau	D	C	9/8	Walzer	Walzer-1A*		15	
234	?	???	?	C	6/8					30
264	?	???=V0:211mm	?	a	9/8					8
272	314	An der schönen blauen Donau	D	C	9/8	Walzer	Walzer-1A*		4	
276	?	???	?	trans.	4/4					17
293	312	Feen-Märchen	B	F	3/4	Walzer	Walzer-5A*	8		
300	312	Feen-Märchen	F	F	3/4	Walzer	Walzer-1A	8		
308	312	Feen-Märchen	F	F	3/4	Walzer	Walzer-2A	8		
316	312	Feen-Märchen	F	F	3/4	Walzer	Walzer-1A	11		
327 (最終小節)								総小節数338 ^{注1)} 小節数		
								179	76	83
								53	22	25
								%	%	%

1.Bild (表中でB1と表記)

1	279	Morgenblätter	G	G	6/8	Walzer	Walzer-1A*		8	
14	?	???	?	D	3/4					32
31	?	???	?	B-D	3/4					16
40	?	???=B1:014mm	?	D	3/4					16
56	279	Morgenblätter	-	G	2/4	Walzer	variant <Walzer-1A		8	
63	279	Morgenblätter	G	G	2/4	Walzer	Walzer-1A*		27	1
92	291	S' giebt nur a Kaiserstadt, s' giebt nur a Wien	G	F	2/4	Polka	Trio-B	16		
108	296	Episode	A	C	2/4	Polka F ^{注2)}	Trio-A	16		
124	291	S' giebt nur a Kaiserstadt, s' giebt nur a Wien	G	F	2/4	Polka	Trio-B	15		
139	310	Tändelei	F	F	3/4	Polka M ^{注3)}	Trio-A*	16		
155	310	Tändelei	F	F	3/4	Polka M	Trio-B*	23		
172	?	???	?	F	3/4					12
183	309	Sylphen-Polka	B	C	2/4	Polka F	Trio-A	40		
203	302	Die Zeitlose	Es	C	2/4	Polka F	Trio-A	16		
219	302	Die Zeitlose	B	C	2/4	Polka F	Schluss*	9	2	
231	297	Electrofer	G	G	2/4	Polka S ^{注4)}	Eingang	4		
234	297	Electrofer	G	G	2/4	Polka S	Polka-A	16		
249	310	Tändelei	C	C	3/4	Polka M	Trio-A*	16		

埼玉学園大学紀要（人間学部篇） 第10号

259	308	Par Force!	B	B	2/4	Polka S	Polka-A	16		
275	301	Kreuzfiedel!	G	C	2/4	Polka	Polka-C	16		
284	294	Process-Polka	F	F	2/4	Polka S	Trio-A	16		
298	330	Fata morgana	B	Des	3/4	Polka M	Trio-B	16		
308	281	Vergnügungszug	A	A	2/4	Polka S	Trio-B	16		
323	304	Kinderspiele	F	F	2/4	Polka F	Trio-B	16		
336	321	Die Publicisten	G	G	3/4	Walzer	Coda-A*	16		
379	?	???	?	G	4/4					10
389	334	Königslieder	F	F	3/4	Walzer	Walzer-1A*		16	
404	334	Königslieder	F	F	3/4	Walzer	Walzer-1A	32		
423	321	Die Publicisten	F	B	3/4	Walzer	Walzer-3B	32		
439	334	Königslieder	F	F	3/4	Walzer	Walzer-4A	32		
471	334	Königslieder	B	B	3/4	Walzer	Walzer-4B	32		
487	307	Wiener Bonbons	B	Es	3/4	Walzer	Walzer-2A	31		
504	?	???	?	Es	3/4					13
516（最終小節）								小節数607	小節数	
								458	61	88
								76	10	14
								%	%	%

2.Bild（表中でB2と表記）

1	307	Wiener Bonbons	D	D	2/4	Walzer	Intro-A*		8	
9	307	Wiener Bonbons	D	D	2/4	Walzer	Intro-B <Walzer-1B		22	
31	381	Kennst du mich?	C	D	3/4	Walzer	Walzer-1A	20		
51	?	???	?	F	3/4	Ländler				17
67	?	???	?	C	3/4					24
92	?	???	?	F	3/4					10
102	?	???	?	C	3/4					18
119	?	???=B2:092mm	?	F	3/4	Ländler				8
128	?	???=B2:092mm	?	F	3/4					12
140	307	Wiener Bonbons	D	D	2/4	Walzer	Intro-B <Walzer-1B	24		2
166	388	Rosen aus dem Süden	G	B	3/4	Walzer	Walzer-3A	17		
183	284	Deutsche Krieger Marsch	Es	Es	4/4	Marsch	Marsch-A	20		
202	284	Deutsche Krieger Marsch	Es	Es	4/4	Marsch	Marsch-B	24		
227	277	Invitation à la Polka Mazur	A	B	3/4	Polka M	Intro*			22
249	330	Fata morgana	B	B	4/4	Polka M	Trio-A*		16	
264	330	Fata morgana	B	B	3/4	Polka M	Trio-A*	12		12
288	330	Fata morgana	B	B	4/4	Polka M	Trio-A*		12	
301	300	Flugschriften <V0:155mm	F	trans.	3/4	Walzer	Walzer-5A*		6	
307	307	Wiener Bonbons	G	C	3/4	Walzer	variant* <Walzer-1B		8	
315	423	Wiener Frauen	a	a	3/4	Walzer	Coda*	6	5	
326		???	?	trans.	3/4					8
334		???	?	D	3/4					17
351		???	?	D	3/4					4
355	397	Der lustige Krieg Marsch	Es	Es	4/4	Marsch	Marsch-A	36		2
392	397	Der lustige Krieg Marsch	Es	Es	4/4	Marsch	Marsch-B	16		
409	406	Matador-Marsch =Spitzentuch-Quadrille, op.392 Final-B	Es	Es	4/4	Marsch	Trio-A	36		
431	RV ^{註5)} 509	Der lustige Krieg 1.Akt No.7	As	As	2/2	Fanfare	No.7 15- 18mm	4	2	
438		???	?	f	2/2	Marsch				16
454		???	?	F	2/2	Marsch				16

ヨーゼフ・バイヤー作曲のバレエ《ドナウの水の精》

469		???=B2:438mm	?	f	2/2	Marsch				16
486		???=B2:454mm	?	F	2/2	Marsch				26
511（最終小節）						総小節数524	小節数	215	79	230
								41	15	44
								%	%	%

3.Bild (表中でB3と表記)

1	314	An der schönen blauen Donau	D	G	3/4	Walzer	Fanfare		20	
21	314	An der schönen blauen Donau	D	G	3/4	Walzer	Walzer-2A*		14	
35	295	Bürgersinn	E	G	3/4	Walzer	Intro-A*		8	
43	376	Methusalem Quadrille	Es	Es	6/8	Quadrille	Trenis-B	32		
60	388	Rosen aus dem Süden	F	As	2/4	Walzer	Walzer-1A*		20	
80	?	???	?	Es	3/4	Walzer				16
96	388	Rosen aus dem Süden	B	B	3/4	Walzer	Walzer-2A	64		
129	381	Kennst du mich?	F	F	3/4	Walzer	Walzer-2A	32		
145	388	Rosen aus dem Süden	B	B	3/4	Walzer	Walzer-2A	32		
177	307	Wiener Bonbons	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-2B	32		
211	300	Flugschriften	Bb	Bb	3/4	Walzer	Walzer-3B	32		
227	307	Wiener Bonbons	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-2B	16		
244	307	Wiener Bonbons	B	B	3/4	Walzer	Coda	23		
267	?	???	?	B	3/4					4
271	390	Nordseebilder	e	e	4/4	Walzer	Intro-A*		10	
281	?	???	?	a-d	3/4					12
306	306	Bürgerweisen	C	C	3/4	Walzer	Intro-B*		20	
313	306	Bürgerweisen	C	C	3/4	Walzer	Walzer-1A	31		
329	395	Myrthenblüthen	Es	C	3/4	Walzer	Walzer-3A	33		
347	331	Illustrationen	As	As	3/4	Walzer	Walzer-5B	32		
379	?	???	?	D	2/2					6
385	228	Radetzky Marsch	D	D	2/2	Marsch	Marsch-A	16		
404	228	Radetzky Marsch	D	D	2/2	Marsch	Marsch-B	16		
420	228	Radetzky Marsch	D	D	2/2	Marsch	Marsch-A	16		
437	307	Wiener Bonbons	D	C	2/4	Walzer	Intro-A*		8	
445	?	???	?	h	3/4					2
447	307	Wiener Bonbons	D	d	2/4	Walzer	variant		8	
455	?	???=B3-445mm	?	trans.	3/4					18
473	?	???	?	G	2/4					5
478	?	???=B3-437, 447mm	?	e	2/4					6
484	307	Wiener Bonbons=B2:307mm	D	C	3/4	Walzer	Walzer-1A*		16	
493	423	Wiener Frauen=B2:315mm	a	a	3/4	Walzer	Coda*	6		2
501	415	Annina	F	F	3/4	Polka M	Polka-B*	4		
504	415	Annina	F	F	3/4	Polka M	Polka-A*	7		
512	?	???	?	F	3/4					7

518 (最終小節)						総小節数626	小節数	424	124	78
								68	20	12
								%	%	%

4.Bild (表中でB4と表記)

1	330	Fata morgana	F	F	3/4	Polka M	Polka-A*	8		
10	330	Fata morgana	F	F	3/4	Polka M	Polka-B	16		
18	330	Fata morgana	F	F	3/4	Polka M	Polka-A*	8		
26	293	Feuilleton	C	B	3/4	Walzer	Walzer-1A*	16		
36	315	Lob der Frauen	G	F	3/4	Polka M	Trio-A	12	4	
52	293	Feuilleton	C	B	3/4	Walzer	Walzer-1A*	8		
60	?	???	?	G	2/4					4

埼玉学園大学紀要（人間学部篇） 第10号

63	286	Patronessen-Polka	G	G	2/4	Polka F	Trio-A	16		
80	282	Gut bürgerlich	Es	D	2/4	Polka F	Polka-B	16		
96	RV 510	Aufzugsmarsch Eine Nacht in Vendig	G	G	2/2	Marsch	Intro	8		
104	RV 510	Aufzugsmarsch Eine Nacht in Vendig	G	G	2/2	Marsch	Marsch-A	16		
113	RV 510	Aufzugsmarsch Eine Nacht in Vendig	G	G	2/2	Marsch	Masch-B*	22		8
132	?	???	?	trans.	2/4					28
160	307	Wiener Bonbons	D	Es	3/4	Walzer	Intro-A* <B2-307mm		22	
171	?	???	?	Es	4/4					7
178	307	Wiener Bonbons	D	Es	3/4	Walzer	Intro-A* <B2-307mm		15	
193	286	Patronessen-Polka	D	C	2/4	Polka F	Polka-B*	16		
204	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Intro	4		
207	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Polka-A	16		
223	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Polka-B	8		
231	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Polka-A	16		
247	301	Kreuzfiedel!	C	C	2/4	Polka F	Trio-A	16		
264	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Trio-B	16		
272	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Trio-A	16		
289	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Intro	4		
292	301	Kreuzfiedel!	G	G	2/4	Polka F	Polka-A	22		
315	?	???	?	D	4/4	Gavotte				36
335	?	???	?	G	4/4					32
353	?	???=B4:315mm	?	D	4/4	Gavotte				16
368	?	???	?	F	4/4					16
378	?	???=B4:315mm	?	D	4/4	Gavotte				36
398	?	???=B4:335mm	?	G	4/4					32
417	427	Donauweibchen	Es	Es	3/4	Walzer	Intro-B	15		
432	427	Donauweibchen	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-1A	33		
464	427	Donauweibchen	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-1B	32		
496	427	Donauweibchen	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-1A	32		
529	427	Donauweibchen	B	B	3/4	Walzer	Walzer-2A	44		
556	427	Donauweibchen	B	B	3/4	Walzer	Walzer-2B	32		
575	427	Donauweibchen	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-3A	43		
598	427	Donauweibchen	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-3B	32		
614	427	Donauweibchen	Es	Es	3/4	Walzer	Walzer-3A	20		
634	427	Donauweibchen	B	B	3/4	Walzer	Walzer-4A	34		
678	291	S' giebt nur a Kaiserstadt, s' giebt nur a Wien	G	B	2/4	Polka	Trio-A	32		
709	331	Illustrationen	B	B	2/4	Walzer	Walzer-3A*	32		
741	291	S' giebt nur a Kaiserstadt, s' giebt nur a Wien	G	B	2/4	Polka	Trio-A	22		
763 (最終小節) 総小節数939 小節数								683	41	215
注 1) 総小節数は反復を含む場合があるので、最終小節番号よりも数が多い。								73	4	23
2) Polka M=Polka Mazur, 3) Polka F= Polka française, 4) Polka S=Polka schnell, 5) RV=Rot 作品番号								%	%	%

op.279のように、3拍子を6/8拍子にあてはめるなど、拍子の変換も行われている。引用の形態に関係なく、引用と判明した部分は全体の77パーセントになる。

他方、原曲が突き止められなかった部分は、前景で25パーセント、第1景で14パーセント、第2景で44パーセント、第3景で12パーセント、第4景で23パーセントである。第2景は原曲不明の比率が傑出して高く、全曲平均では23パーセントになる。

5 まとめ

本研究によって、バレエ《ドナウの水の精》におけるシュトラウス・モティーフの引用実態を解明することができた。シュトラウス・モティーフの使用は全体の77パーセントに留まり、残りの23パーセントについては原曲を発見することができなかった。

初演翌日の*Wiener Zeitung*紙（1892年7月14付）に、「バイヤーによる2曲のオリジナル・ダンス、すなわちワルツ“*Frohe Laune*”とガヴォットは独創的ではなかったし、興奮するようなものでもなかった」⁹⁾と記されている。1度聴いただけでバイヤーの原曲を特定できるほど、当時バイヤーの楽曲は有名だったのかと驚くばかりだが、この記事を文字通り信じるならば、原曲不明の箇所バイヤーのオリジナル楽曲が用いられた有力な証拠となりうる。そこで、“*Frohe Laune*”の出版譜とバレエの照合を試みた。その結果、“*Frohe Laune*”のモティーフはバレエ本体には使用されていないことが判明した。

図1に示した7月13日付の*Neue Freie Presse*紙や、同日の*Die Presse*紙に掲載された広告記事には、バレエ上演時に演奏される3つの幕間音楽が明記されている。そこに挙

げられているのが、前景と第1景の間に演奏されるバイヤーのワルツ“*Frohe Laune*”、第1景と第2景の間に演奏されるシュトラウスのワルツ〈宣伝ビラ〉、そして第3景と第4景の間に演奏されるバイヤーのガヴォットである。7月14日付の*Wiener Zeitung*紙の記事は、新聞広告に掲げられた幕間音楽に言及したものと考えるのが妥当と思われる。

一方、不明箇所を探究するための別の示唆もある。それは、ライプツィヒの書籍商ホフマイスターが1829年から編纂を続けた書籍目録である。ここにはヨーロッパ内で出版された書籍と楽譜が収載された。1892年11月発行の目録には、《ドナウの水の精》のピアノ全曲譜（本研究の分析使用楽譜）のほか、バレエから抜粋された楽譜4冊が掲載されている。それらは、“*Donauwalzer*”のオーケストラ版とピアノ版、そしていずれもピアノ用の“*Helenen-Gavotte*”と“*Deutschmeister-Defilier-Marsch*”である。これらの楽譜では4冊とも作曲者としてバイヤーの名が付与されている。しかしながら、これらの楽譜は存在した事実が判明しているだけで、現存楽譜を発見するには至っていない。したがって、これらの楽譜を発見し、バレエ《ドナウの水の精》におけるバイヤーの働きを解明することは、今後の課題としたい。

[注]

- 1) 40クロイツァーは現在の約3300円、30クロイツァーは約2500円。
- 2) プラハ初演は1892年4月24日。
- 3) 本稿におけるヨハン・シュトラウス2世作品の邦題は、日本ヨハン・シュトラウス協会2006に従った。

- 4) ハンスリックは1898年にバレエの台本探しに手を貸した。しかし、シュトラウスはこの時のバレエ《シンデレラ》を完成させずに亡くなる。彼の死後、同作品を補完する人物としてバイヤーに白羽の矢がたてられた。
- 5) シュトラウスはフランスでの援助を求めて、1866年1月28日にウィーン王宮のレドゥーテンザールで開催された舞踏会で、メッテルニヒ夫人にワルツ〈ウィーンのボンボン Wiener Bonbons〉op.307を献呈。夫人への献呈はこの1曲のみ。
- 6) この演奏会には、もうひとりの献呈者であるブラームスが出席していた。
- 7) このワルツがエドゥアルト・シュトラウス指揮のシュトラウス楽団によって博覧会で初めて演奏されたのは1892年9月13日。同楽団は3月末から9月まで演奏旅行を行っており、ウィーンにはいなかった。博覧会開幕式では、ベートーヴェンの〈献堂式〉序曲が演奏された。
- 8) 原曲名はいずれも黒い鉛筆で字消しされているが、消された文字は判読できる。
- 9) この記事を示してくださった、英国ヨハン・シュトラウス協会名誉会長Peter Kemp氏と、Wienbibliothek im Rathaus の Thomas Aigner博士に感謝する。

[Library Sigla]

- A-Wn Österreichische Nationalbibliothek,
Musiksammlung. Wien, Austria
A-Wst Wienbibliothek im Rathaus. Wien, Austria

[使用楽譜]

- BAYER, Josef
nlt 1892 *Frohe Laune*, Walzer von Bayer. Leipzig:
Bosworth & Co. A-Wst: Sign.Mex: Mc 18987
1892a *Die Donaunixe*. (Autograph) A-Wn: Mus.
Hs.36061. Mus.
1892b *Donaunixe: Ballet in einem Vorspiel und
vier Bildern mit Benutzung Joh.
Strauss'scher Motive*. Hamburg: Aug.Cranz.
HILMAR, Ernst (ed.)
1991 *Strauss, Johann (Sohn): Sämtliche Werke in*

Wiedergabe der Originaldrucke. Bd.1(1991),
Bd.2(1991), Bd.3(1991), Bd.4(1991). Tutzing:
Hans Schneider.

HOFMEISTER (ed.)

1892 *Musikalisch- literischer Monatsbericht*.
Leipzig: Hofmeister. <http://www.hofmeister.rhul.ac.uk/2008/content/database/database.html> で閲覧.

RACEK, Fritz; JOHANN-STRAUSS-GESELLSCHAFT
WIEN(eds.)

1967-8 *Johann Strauss (Sohn) Gesamtausgabe*. Serie
I: Bd.18(1968), Bd.19(1967). Wien, München:
Doblinger.

ROT, Michael(ed.)

1998- *Neue Johann Strauss Gesamtausgabe*. Serie
I: Bühnenerwerke, Werkgruppe 2, Bd.2: *Karneval
in Rom* (2006), Bd.8: *Das Spitzentuch von
Königin* (2007), Bd.9: *Der lustige Krieg* (2007),
Bd.10: *Eine Nacht in Venedig* 1999), Werkgruppe
3, Bd.1: *Aschenbrödel* (1999), Serie II:
Instrumentalwerke, Werkgruppe 4, Abt.1,
Bd.1(1998), Bd.2(1998), Bd.3(2005?),
Bd.4(2007?), Bd.5(2007?), Bd.6(2008),
Bd.7(2008), Bd.8(2009), Abt.2, Bd.1(2008),
Bd.2(2008), Bd.3(2009), Ab.4, Bd.1(2009).
Wien: Strauss Edition Wien.

STRAUSS, Johann, junior)

1931 *Prinz Methusalem*. Leipzig: Cranz.
n.d. *Meine Strauss Walzer*. Bd.2. Mainz : B. Schott'
Söhne.

[参照新聞] (いずれも A-Wn: Digitalisierte Ausgaben)

*Das Vaterland; Die Bombe; Die Presse; Neue Freie
Presse; Wiener Sonn- und Montags-Zeitung; Wiener
Zeitung*

[参考録音資料]

BAYER, Josef
2010『*Donaunixe* (ドナウの水の精)』日本ヨハン・
シュトラウス協会2010年3月例会のライブ録音.
ピアノ演奏: 前田, 拓郎, ナレーション: 若宮,

ヨーゼフ・バイヤー作曲のバレエ《ドナウの水の精》

由美. 東京：日本ヨハン・シュトラウス協会.
 STRAUSS, Johann, junior
 1989-96 *J. Strauss, Jr. Edition*. 52 vols. Hong Kong:
 Marco Polo Western.

[参考文献]

BLOM, Eric; FIFIELD, Christopher
 2001 “Bayer, Joseph”, in SAIDIE, Stanley (ed.) *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*. 2nd ed. 29 vols. London: Macmillan. Vol.3: 2.
 DANIELCZYK, Julia
 2009 “Die Internationale Ausstellung für Musik- und Theaterweisen in Wien 1892 und ihre imagebildende Funktion”, in HULFELD, Stefan; PETER, Birgit (eds.) *Maske und Kothurn*. Jg. 55. Heft 2: 11-22.
 KEMP, Peter
 1989-96 *J. Strauss, Jr. Edition*. 52 vols. Hong Kong: Marco Polo Western.
 2001 “Strauss”, in SAIDIE, Stanley (ed.) *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*. 2nd ed. 29 vols. London: Macmillan. Vol.24: 474-496.
 LINHARDT, Marion
 2006 “Strauß”, in FINSCHER, Ludwig (ed.) *Die Musik in Geschichte und Gegenwart*. 21 Bände. Kassel; Basel; London; New York; Prag; Metzler; Stuttgart; Weimar: Bärenreiter. Personenteil Bd.16: 11-54.
 MAILER, Franz
 1996-2007 *Johann Strauß(Sohn). Leben und Werk in Briefen und Dokumenten*. Bd.6: 1892-1893(1996), Bd.7: 1894(1998), Bd.9: 1898-1899(2002), Bd.10: *Ergänzungen und Gesamtregister*(2007). Tutzing: Hans Schneider.
 1999a *Johann Strauß. Kommentiertes Werkverzeichnis*. Wien: Pichler.
 1999b “Der „Walzerkönig“ auf dem Weg zum Ballett”, in WIENER STAATSOPER(ed.) *Zanella – Strauß: Aschenbrödel*. pp.33-37.
 MARR, Robert A.

2009 *Musical History: As Shown in the International Exhibition of Music and the Drama, Vienna 1892*. Montana: Kessinger Publishing.

日本ヨハン・シュトラウス協会

2006 『ヨハン・シュトラウス 2 世作品目録』 東京：日本ヨハン・シュトラウス協会.

OBERZAUCHER, Alfred

1999 “Bayer, Josef”, in FINSCHER, Ludwig (ed.) *Die Musik in Geschichte und Gegenwart*. 21 Bände. Kassel; Basel; London; New York; Prag; Metzler; Stuttgart; Weimar: Bärenreiter. Personenteil Bd.2: 551.

OBERZAUCHER-SCHÜLLER, Gunhild

2009 “ALLES WALZER! Seligkeit, Rausch und Tod der Walzer auf der Ballettbühne”, in WIENER STAATSOPER(ed.) *Das Ballet: Die Fledermaus*. pp.55-65.

SCHÖNHERR, Max

1982 *Lanner, Strauss, Zieler*. Wien, München: Doblinger.

植田, 敏郎 (編著)

1998 「ドナウ川の水の精 (オーストリア)」 in 『民話と伝説 呪いの巻物12：世界の恐ろしい話』 東京：偕成社. pp.65-77.

若宮, 由美

2010a 「ヨーゼフ・バイヤー作曲：ヨハン・シュトラウスのメロディーによるプロローグと 4 景からなるバレエ《ドナウの水の精》」 in 『日本ヨハン・シュトラウス協会会報第281号』 東京：日本ヨハン・シュトラウス協会. p.3.

2010b 「『ドナウの水の精』の探究①：楽譜発掘秘話、そしてシュトラウスとバイヤーの関係」 in 『日本ヨハン・シュトラウス協会会報第282号』 東京：日本ヨハン・シュトラウス協会. pp.5-8.

WIENER INSTITUT FÜR STRAUSS-FORSCHUNG (ed.)

1990- *Strauß-Elementar-Verzeichnis*. Teilband A, 1.Lieferung (1990), 2.Lieferung (1991), 3. Lieferung (1992), 4.Lieferung (1992), 5.Lieferung (1993), 6.Lieferung (1995), 7.Lieferung (1997). Tutzing: Hans Schneider.